

## ．調査の結果

### 第1節 人権尊重社会の構築について

#### 1-1 取り組みに対する評価（問33）

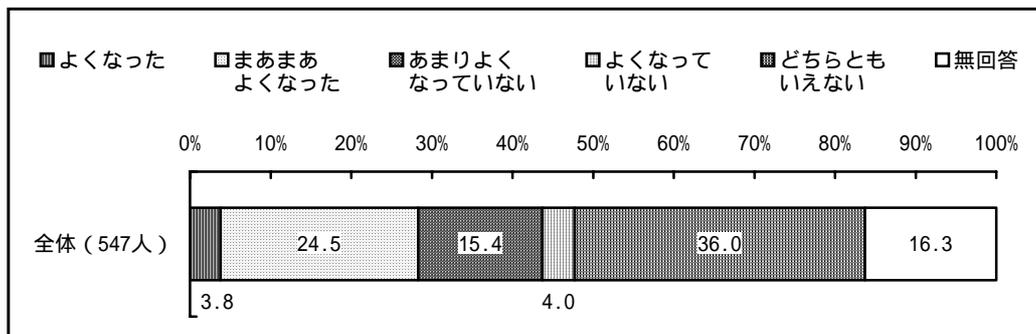
「人権尊重社会の構築」は、“よくなった”が約3割、“よくなっていない”が約2割。

人権啓発・教育の充実や男女共同参画社会に向けた意識の啓発など、人権尊重社会の構築については「よくなった」が3.8%、「まあまあよくなった」が24.5%で、あわせると“よくなった”が28.3%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が15.4%、「よくなっていない」が4.0%で、あわせると“よくなっていない”が19.4%です。

図 人権尊重社会の構築

（回答者総数：547人）



## 1-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『男女共同参画社会の理念の普及』と『相談体制の整備・充実』では4割以上。

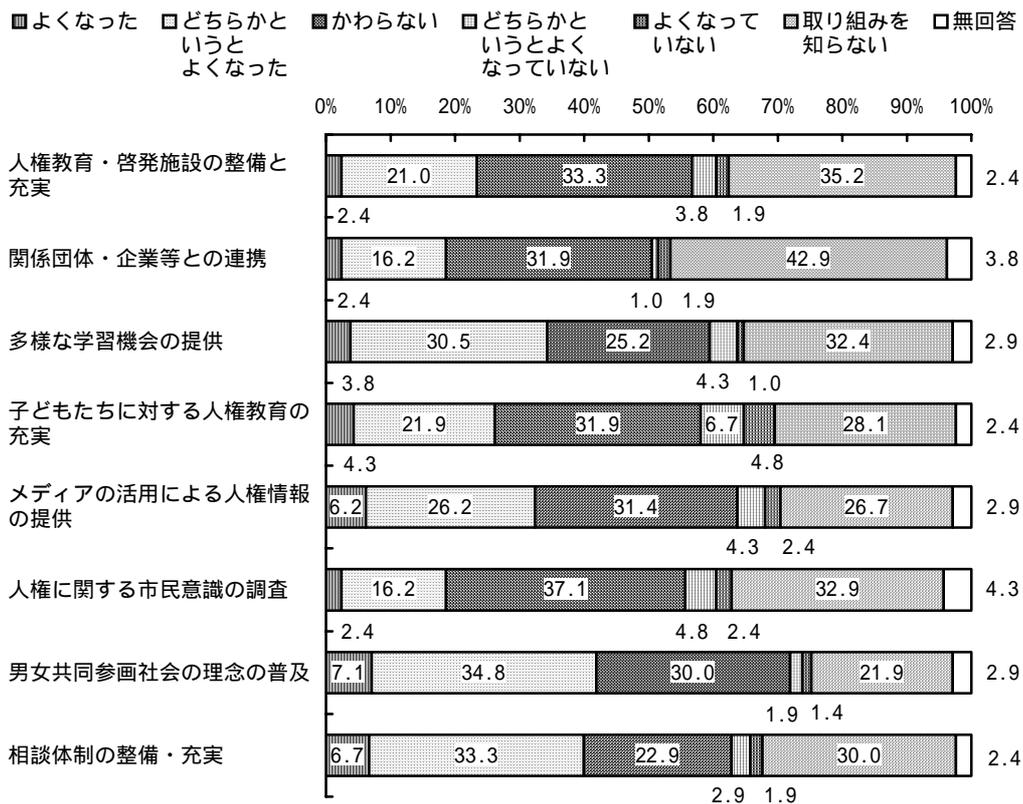
各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”が、『男女共同参画社会の理念の普及』では41.9%、『相談体制の整備・充実』では40.0%と4割以上を占めています。

その一方、『関係団体・企業等との連携』や『人権に関する市民意識の調査』ではともに18.6%と2割を下回り評価が低くなっています。

また、「取り組みを知らない」が『関係団体・企業等との連携』、『人権教育・啓発施設の整備と充実』、『人権に関する市民意識の調査』、『多様な学習機会の提供』、『相談体制の整備・充実』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：210人）



### 1-3 関連設問

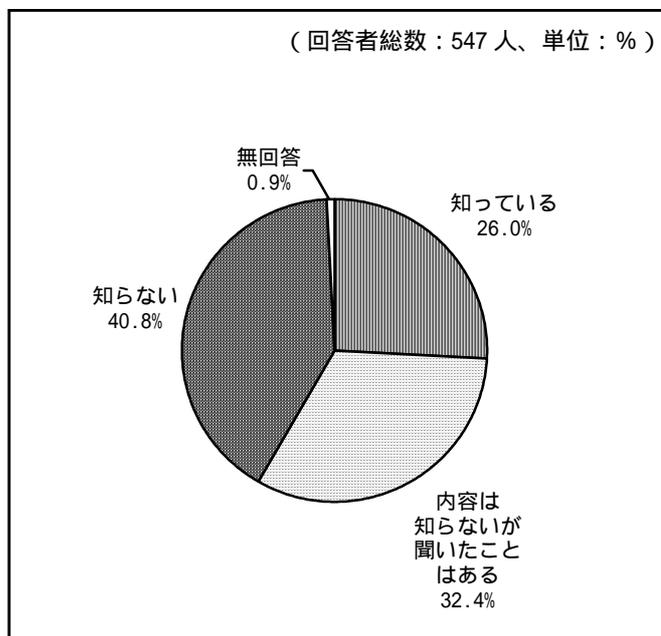
#### (1) 「人権尊重・人権擁護都市宣言」の周知度(問7)

“知っている・聞いたことはある”が約6割。

市の「人権尊重・人権擁護都市宣言」の周知度については、「知っている」が26.0%、「内容は知らないが、聞いたことはある」が32.4%となっており、あわせると“知っている・聞いたことはある”は58.4%です。

一方、「知らない」は40.8%となっています。

図 「人権尊重・人権擁護都市宣言」の周知度



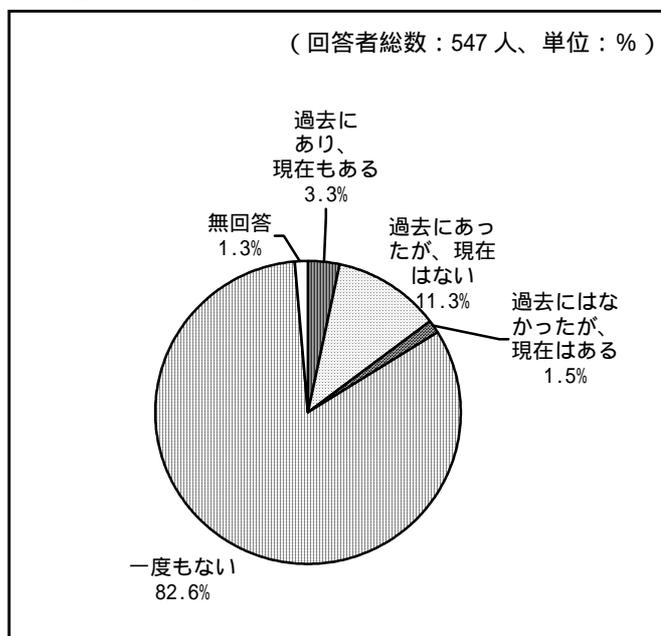
#### (2) 差別や偏見を受けたことの有無(問8)

“受けたことはない”が約8割。

差別や偏見を受けたことがあるかについては、「過去にあり、現在もある」が3.3%、「過去にあったが、現在はない」が11.3%、「過去にはなかったが、現在はある」が1.5%となっており、あわせると16.1%の人が何らかの差別や偏見を受けた経験があるとしています。

一方、「一度もない」という人は82.6%を占めました。

図 差別や偏見を受けたことの有無

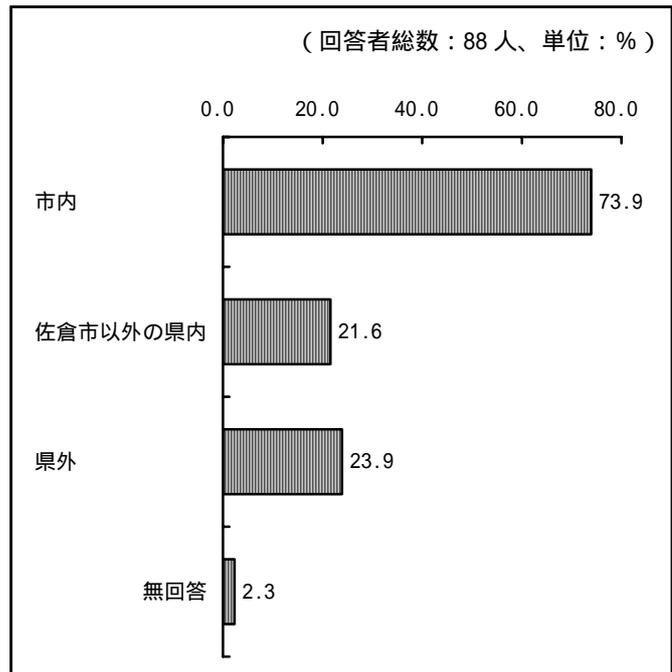


(3) 差別や偏見を受けた場所 (問8 - 1)

「市内」が約7割。

差別や偏見を受けた経験がある場所は、「市内」が73.9%、「佐倉市以外の県内」が21.6%、「県外」が23.9%となっています。

図 差別や偏見を受けた場所 (複数回答)



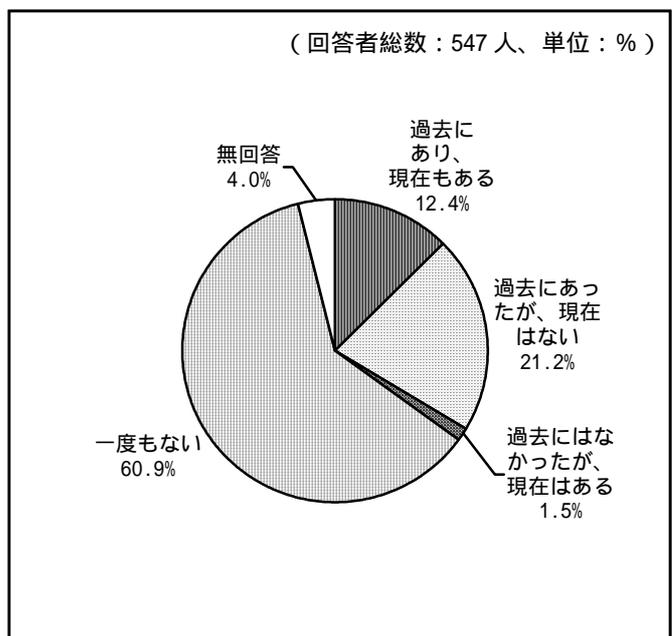
(4) 差別や偏見を受けているのを見たことの有無 (問9)

見たことが「一度もない」は約6割。

他の人が差別や偏見を受けているのを見たことがあるかについては、「過去にあり、現在もある」が12.4%、「過去にあったが、現在はない」が21.2%、「過去にはなかったが、現在はある」が1.5%となっており、あわせると35.1%の人が何らかの差別や偏見を目にしています。

一方、「一度もない」という人は60.9%を占めました。

図 差別や偏見を受けているのを見たことの有無

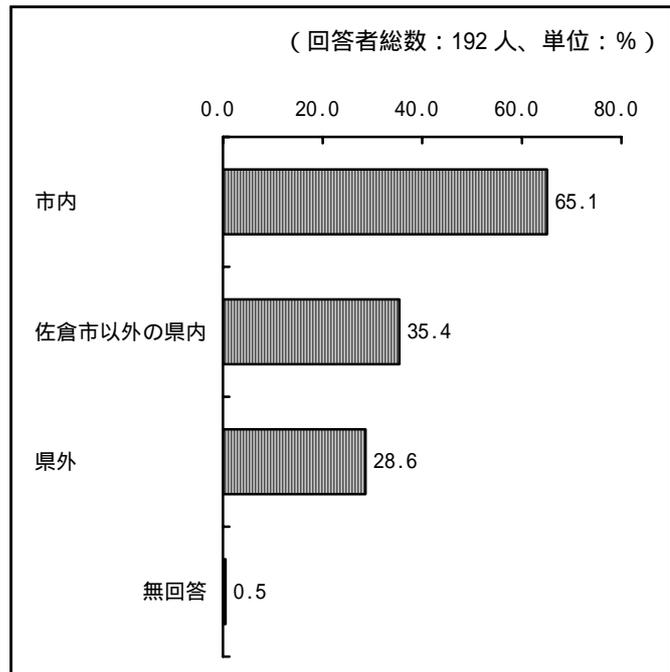


(5) 差別や偏見を受けているのを見た場所(問9-1)

「市内」が約7割。

差別や偏見を目にした場所は、「市内」が65.1%、「佐倉市以外の県内」が35.4%、「県外」が28.6%となっています。

図 差別や偏見を受けているのを見た場所(複数回答)



## 第2節 国際性にみちた人づくり、まちづくりについて

### 2-1 取り組みに対する評価（問33）

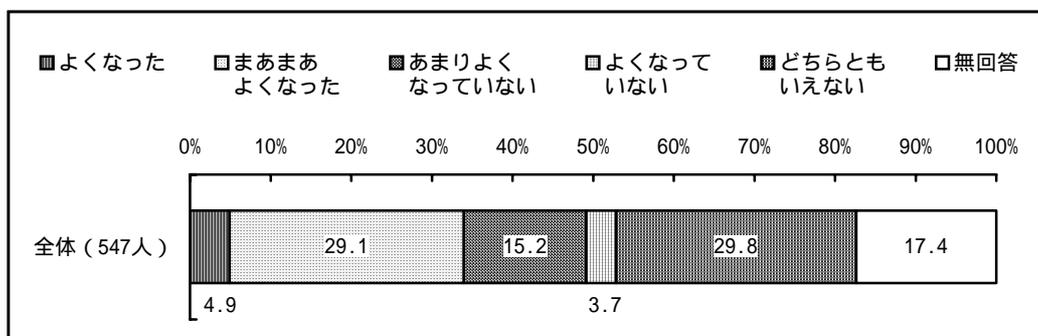
「国際化・平和施策の推進」は、「よくなった」が約3割、「よくなっていない」が約2割。

国際交流、平和使節団や平和体験学習等の子どもたちへの平和教育など、国際化・平和施策の推進については「よくなった」が4.9%、「まあまあよくなった」が29.1%で、あわせると“よくなった”が34.0%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が15.2%、「よくなっていない」が3.7%で、あわせると“よくなっていない”が18.9%です。

図 国際化・平和施策の推進

（回答者総数：547人）



## 2-2 施策に対する満足度（満足度評価）

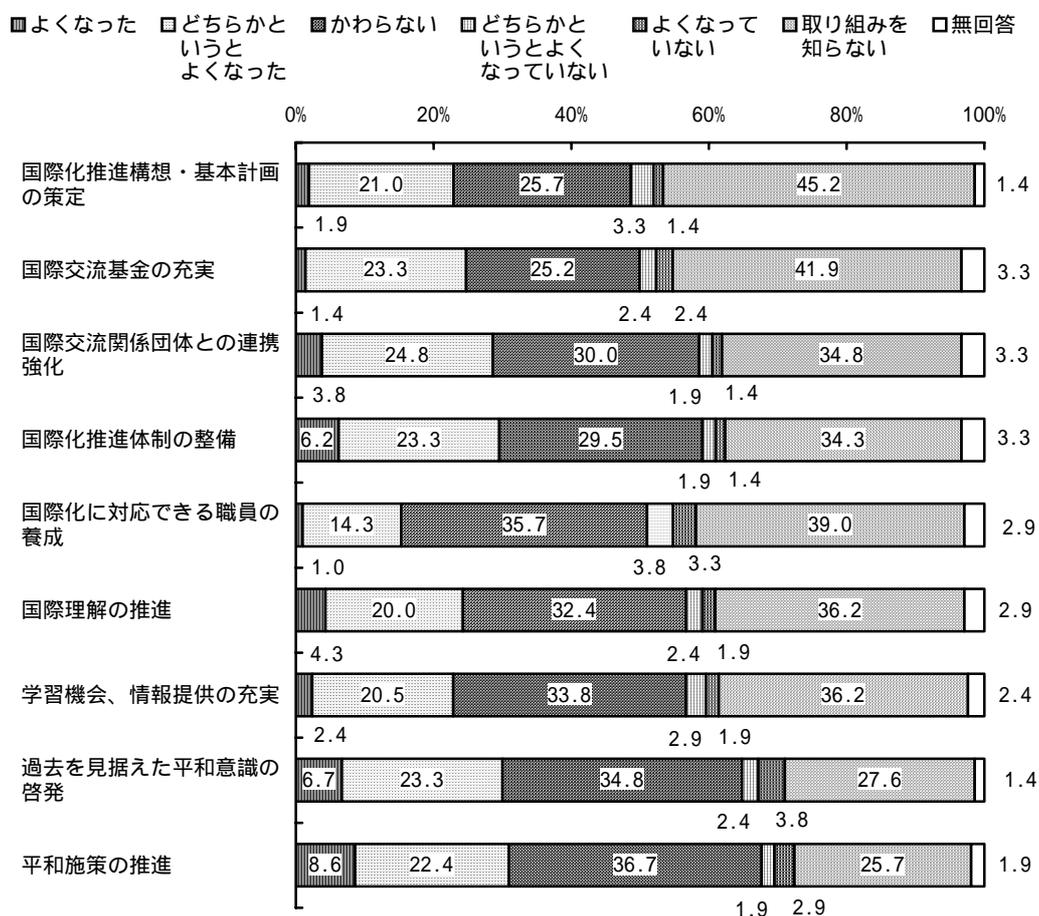
特に評価が低いのは『国際化に対応できる職員の養成』

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて「よくなった」がすべて4割を下回っています。特に評価が低いのは『国際化に対応できる職員の養成』で15.3%となっています。

また、「取り組みを知らない」が『国際化推進構想・基本計画の策定』や『国際交流基金の充実』、『国際化に対応できる職員の養成』、『国際理解の推進』、『学習機会、情報提供の充実』、『国際交流関係団体との連携強化』、『国際化推進体制の整備』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：210人）



## 2-3 関連設問

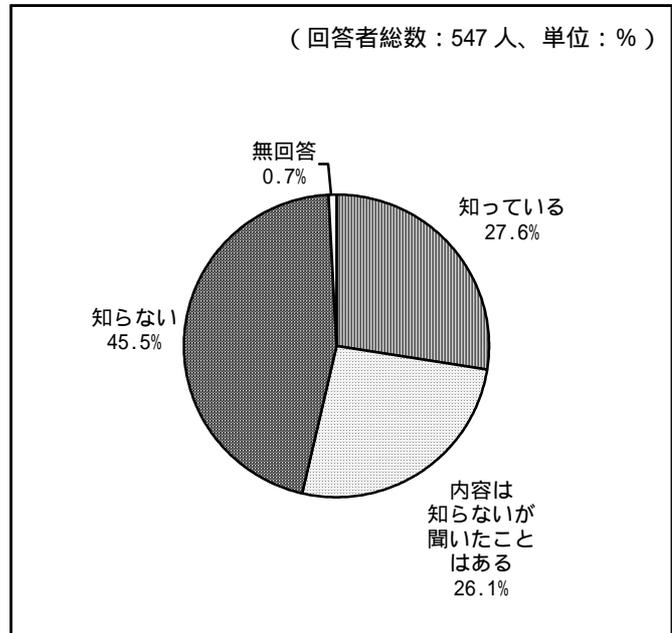
### (1) 「平和条例」及び「平和都市宣言」の周知度(問10)

“知っている・聞いたことはある”が過半数。

「佐倉市平和行政の基本に関する条例」(平和条例)及び「平和都市宣言」の周知度については、「知っている」が27.6%、「内容は知らないが、聞いたことはある」が26.1%となっており、あわせると“知っている・聞いたことはある”は53.7%を占めています。

一方、「知らない」は45.5%です。

図 「平和条例」及び「平和都市宣言」の周知度

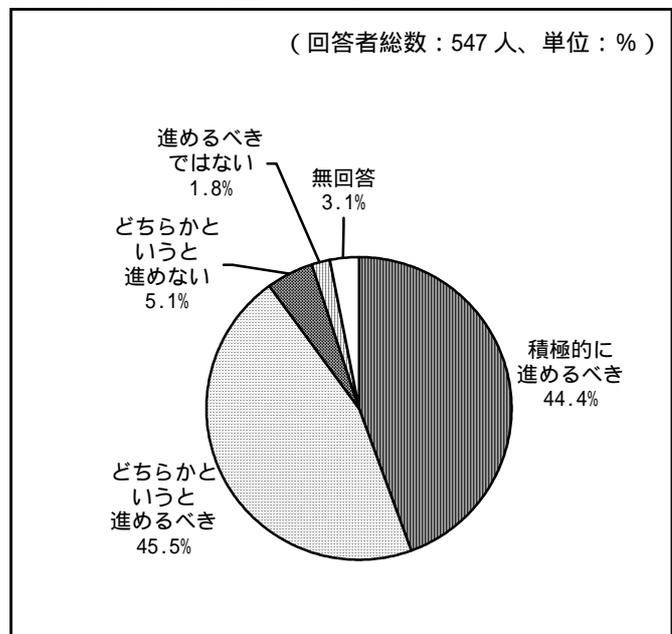


### (2) 平和行政の推進について(問11)

“進めるべき”が約9割。

市が平和式典や平和コンサートなどの事業を通じて平和行政を推進することについてどう思うかについては、「積極的に進めるべき」が44.4%、「どちらかというに進めるべき」が45.5%となっており、あわせると“進めるべき”は89.9%を占めています。

図 平和行政の推進について



## 第3節 学校教育の充実について

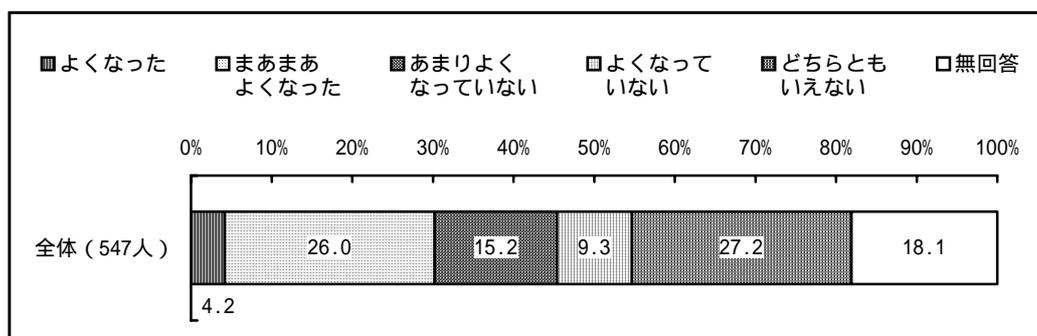
### 3-1 取り組みに対する評価（問33）

「学校教育の充実」は、“よくなった”が約3割、“よくなっていない”も約3割。

教育内容・教育方法の充実や学校施設の充実など、学校教育の充実については「よくなった」が4.2%、「まあまあよくなった」が26.0%で、あわせると“よくなった”が30.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が15.2%、「よくなっていない」が9.3%で、あわせると“よくなっていない”が24.5%です。

図 学校教育の充実 (回答者総数：547人)



### 3-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『情報教育の充実』と『地域資源の積極的な活用』では4割以上。

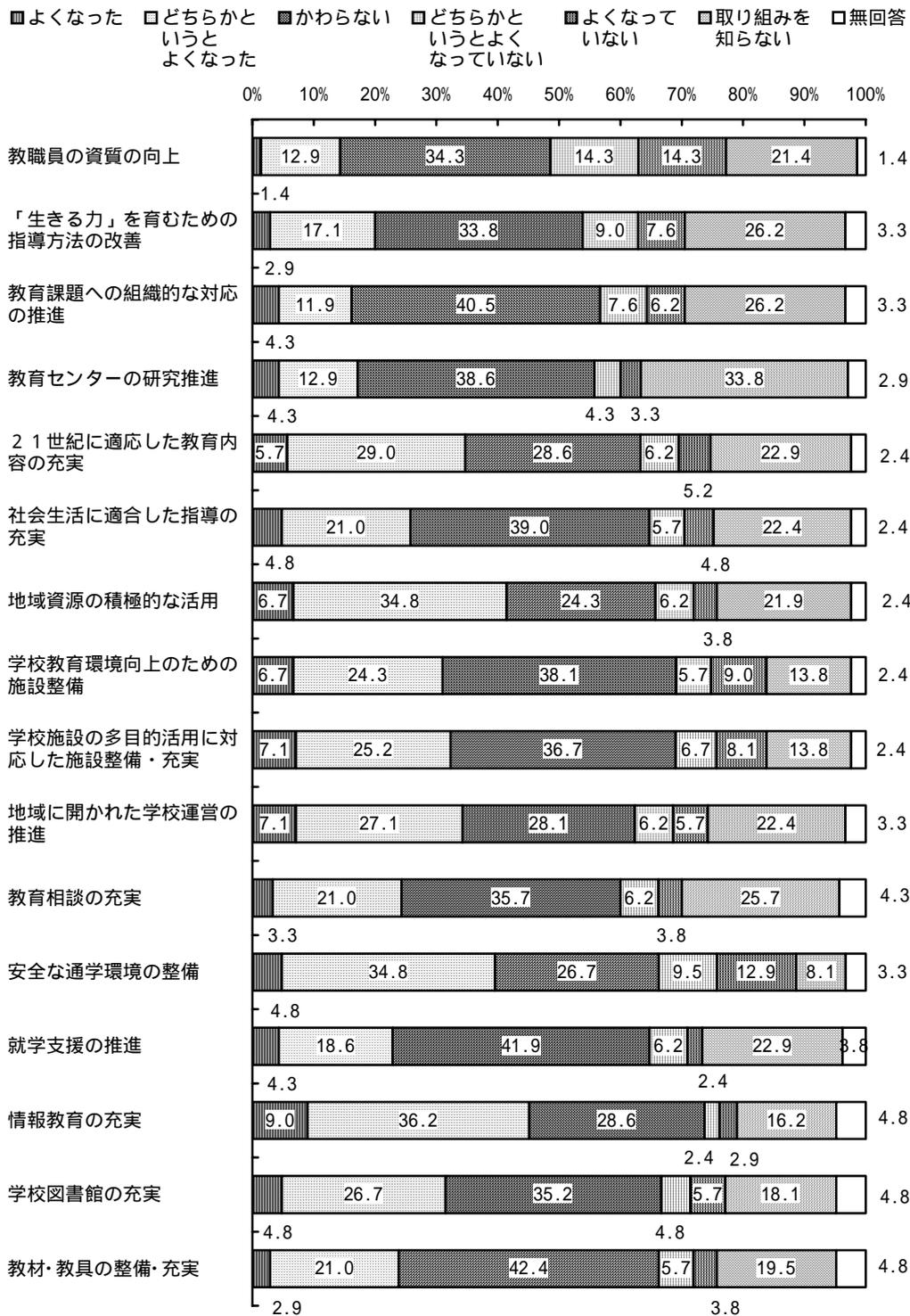
各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『情報教育の充実』では45.2%、『地域資源の積極的な活用』では41.5%と4割以上を占めています。

その一方、『教育センターの研究推進』では17.2%、『教育課題への組織的な対応の推進』では16.2%、『教職員の資質の向上』では14.3%と2割を下回り評価が低くなっています。

また、「取り組みを知らない」が『教育センターの研究推進』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

(回答者総数：210人)



### 3-3 関連設問

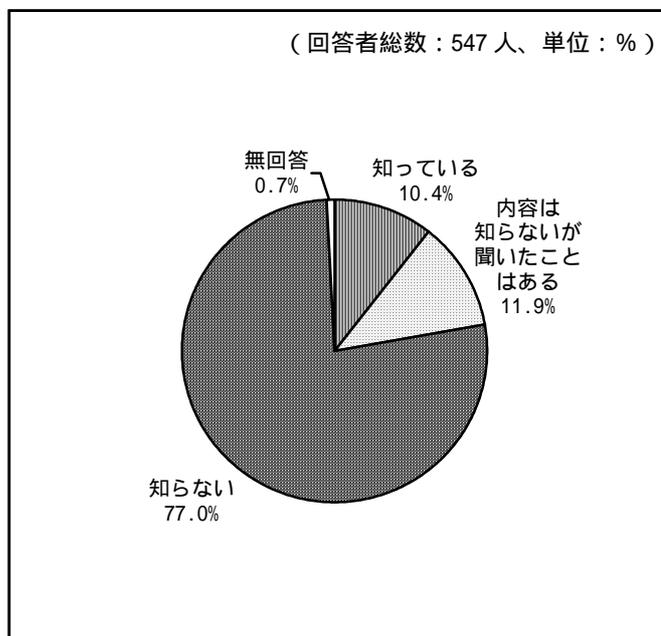
#### (1) 地域と連携した学校運営の周知度 (問 12)

“知っている・聞いたことがある”は約2割。

地域の意見を踏まえ特色ある学校づくりなどを進める「地域と連携した学校運営」についての周知度については、「知っている」が10.4%、「内容は知らないが、聞いたことはある」が11.9%となっており、あわせると“知っている・聞いたことがある”は22.3%です。

一方、「知らない」は77.0%となっています。

図 地域と連携した学校運営の周知度

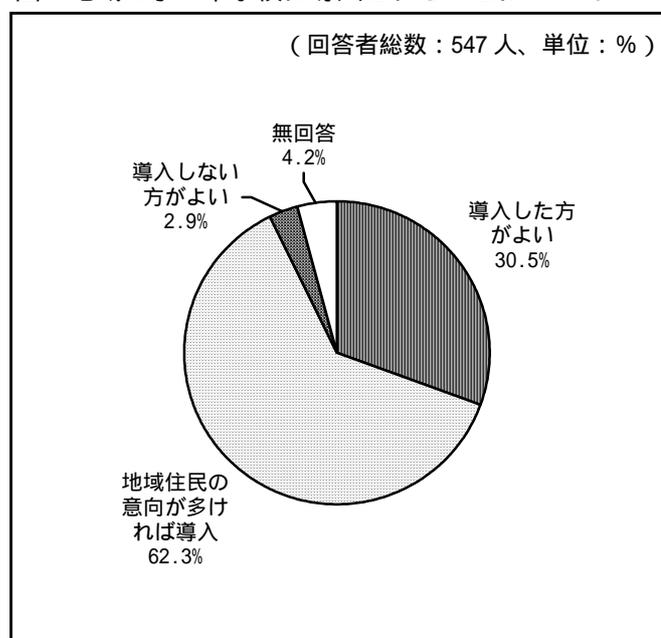


#### (2) 地域の小・中学校に導入されることについて (問 13)

“導入に賛成”が約9割。

「地域と連携した学校運営」が地域の小・中学校で導入されることについては、「導入した方がよい」が30.5%、「地域住民の意向が多ければ導入」が62.3%となっており、“導入に賛成”が92.8%となっています。

図 地域の小・中学校に導入されることについて

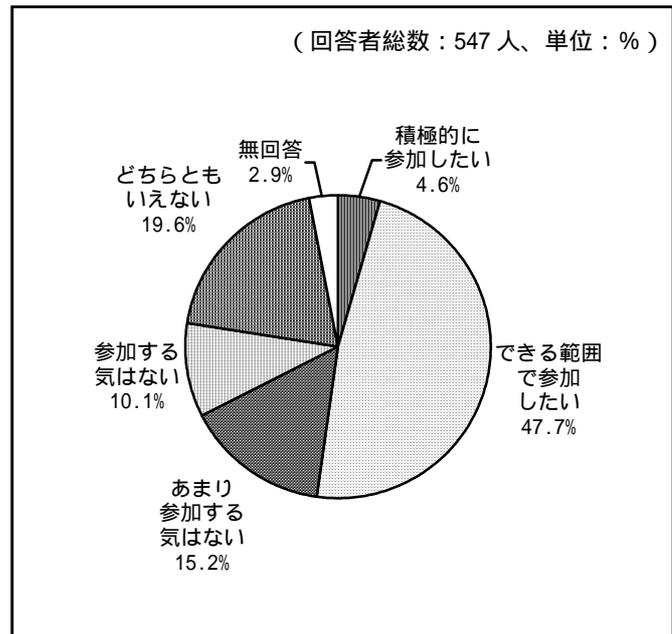


(3) 取り組みへの参加意向 (問 14)

参加意向のある人が過半数を占める。

「地域と連携した学校運営」への参加意向については、「積極的に参加したい」が4.6%、「できる範囲で参加したい」が47.7%となっており、あわせると52.3%で参加意向のある人が過半数を占めています。

図 取り組みへの参加意向

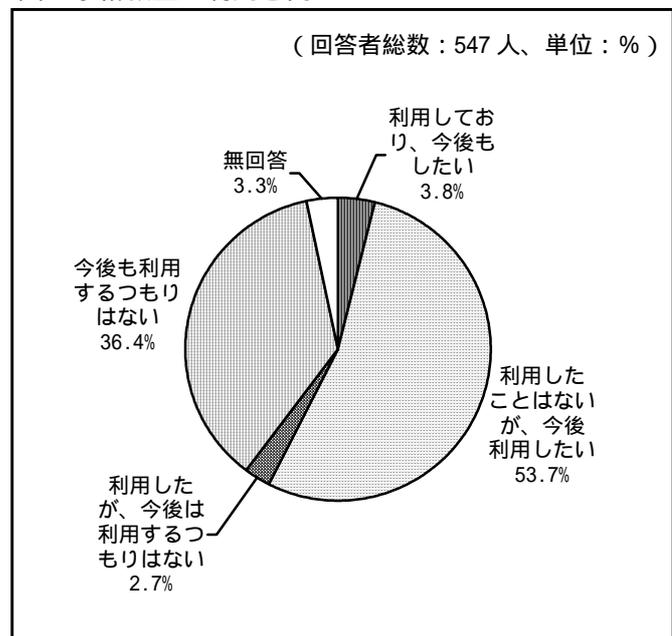


(4) 余裕教室の利用意向 (問 15)

利用意向のある人は約6割。

余裕教室の利用意向については、「利用しており、今後もしたい」が3.8%、「利用したことはないが、今後利用したい」が53.7%となっており、あわせると57.5%で利用意向のある人は約6割となっています。

図 余裕教室の利用意向

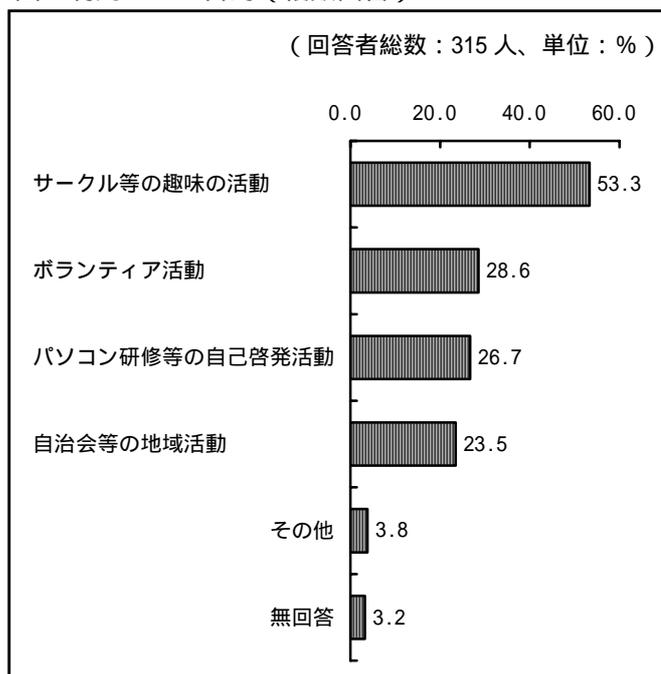


(5) 利用したい目的 (問15-1)

「サークル等の趣味の活動」が約5割で最も高い。

余裕教室を利用したい人の利用目的については、「サークル等の趣味の活動」が53.3%で最も高く、次いで「ボランティア活動」が28.6%となっています。

図 利用したい目的 (複数回答)

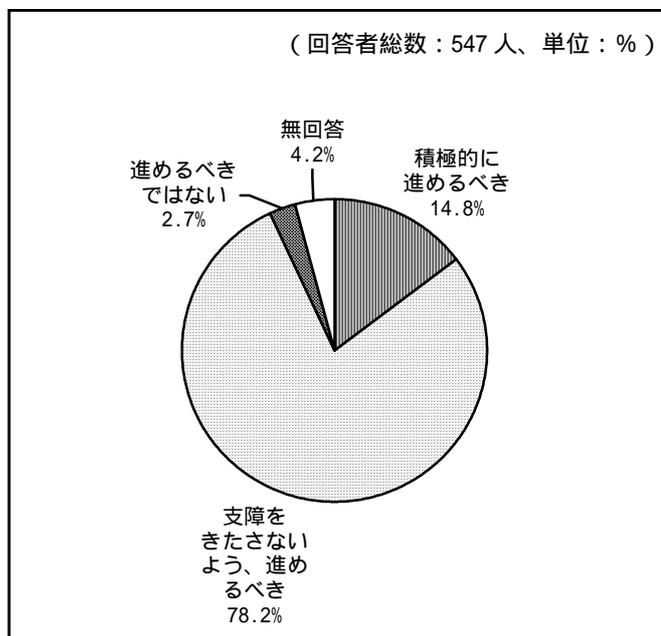


(6) 学校開放について (問16)

“学校開放を進めるべき”は約9割。

学校開放についてどう思うかについては、「支障をきたさないよう、進めるべき」が78.2%で圧倒的に高くなっています。これに、「積極的に進めるべき」の14.8%をあわせると、“学校開放を進めるべき”が93.0%を占めています。

図 学校開放について



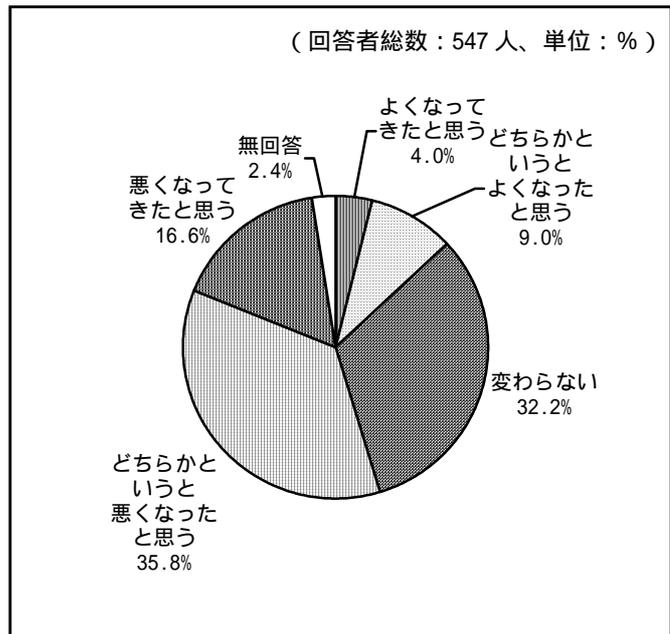
(7) 市民の道徳性 (問22)

悪くなったと感じている人が過半数。

市民の「道徳性」の変化については、「どちらかという悪くなったと思う」が35.8%、「悪くなってきたと思う」が16.6%となっており、あわせると悪くなったと感じている人が52.4%で過半数を占めています。

一方、「よくなってきたと思う」は4.0%、「どちらかというよくなったと思う」は9.0%で、よくなったと感じている人は13.0%です。「変わらない」は32.2%となっています。

図 市民の道徳性

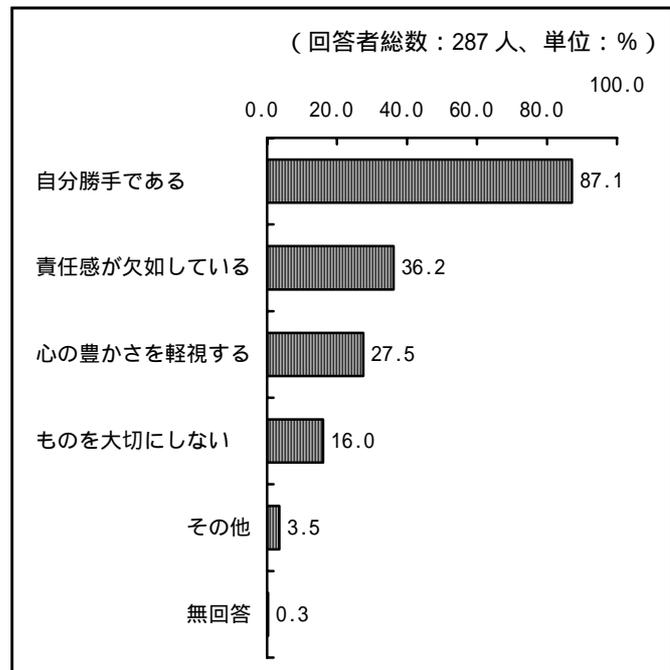


(8) 悪くなったと感じる理由 (問22-1)

「自分勝手である」が約9割で最も高い。

どのような様子を見たときに市民の「道徳性」の悪化を感じるかについては、「自分勝手である」が87.1%で最も高くなっています。次いで、「責任感が欠如している」が36.2%、「心の豊かさを軽視する」が27.5%となっています。

図 悪くなったと感じる理由 (複数回答)

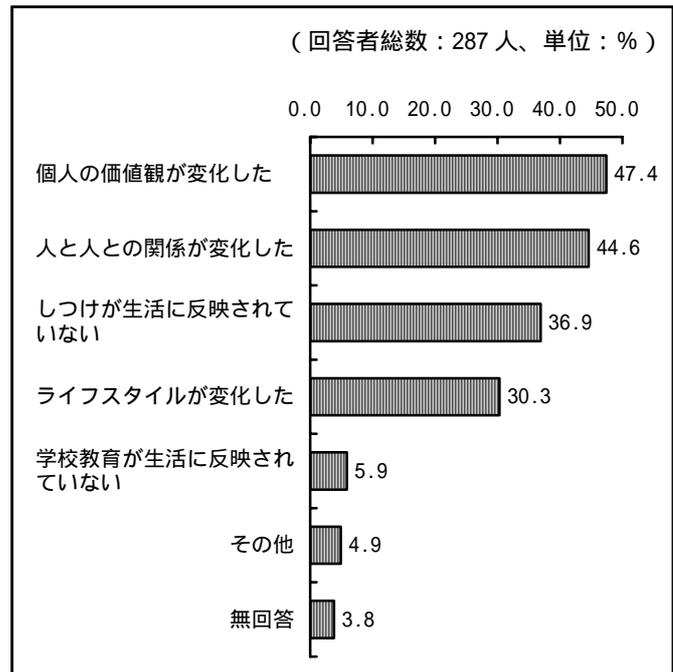


(9) 悪くなった原因 (問 22 - 2)

「個人の価値観が変化した」が約5割で最も高い。

市民の「道徳性」が悪くなった原因については、「個人の価値観が変化した」が47.4%で最も高く、次いで「人と人との関係が変化した」が44.6%となっています。

図 悪くなった原因 (複数回答)



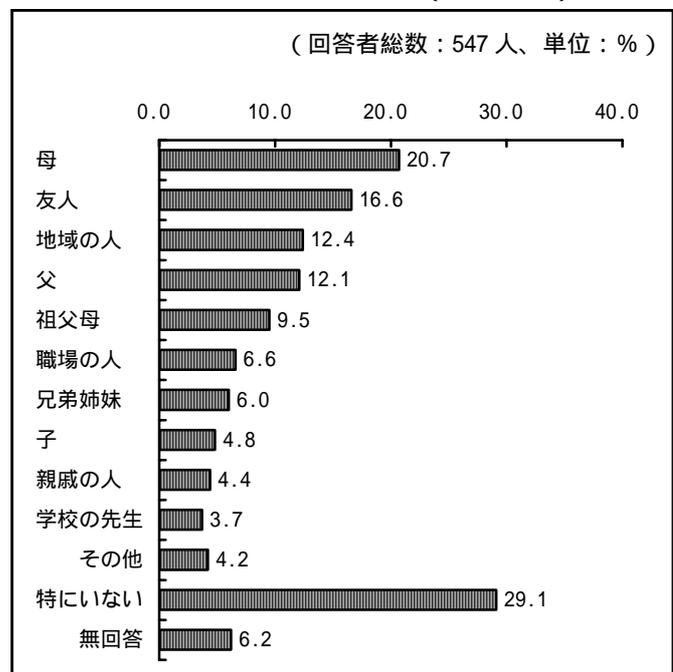
(10) 道徳に関心の高い身近な人物 (問 23)

「母」が約2割で最も高い。

道徳について関心が高いと思う人は、「母」が20.7%で最も高く、次いで「友人」が16.6%、「地域の人」が12.4%となっています。

また、「特にいない」は29.1%となっています。

図 道徳に関心の高い身近な人物 (複数回答)



## 第4節 みんなが支える子どもたちの成長について

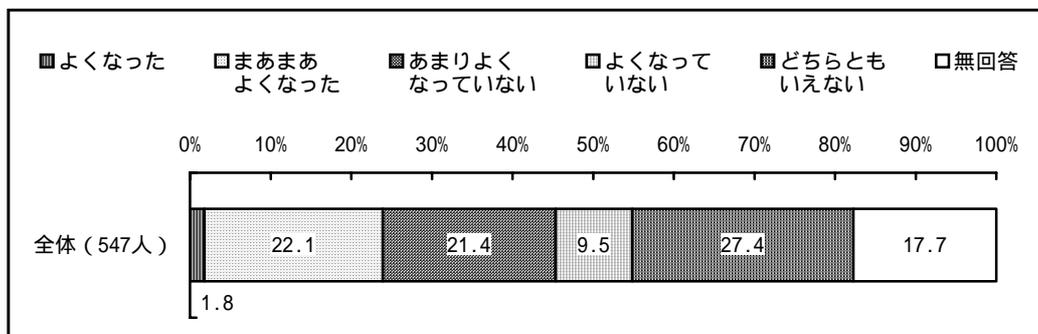
### 4-1 取り組みに対する評価（問33）

「家庭や地域における教育の充実」は、“よくなった”が約2割、“よくなっていない”が約3割。

子どもたちの活動機会の充実や活動の場の整備など、家庭や地域における教育の充実については、「よくなった」が1.8%、「まあまあよくなった」が22.1%で、あわせると“よくなった”が23.9%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が21.4%、「よくなっていない」が9.5%で、あわせると“よくなっていない”が30.9%です。

図 家庭や地域における教育の充実 (回答者総数：547人)



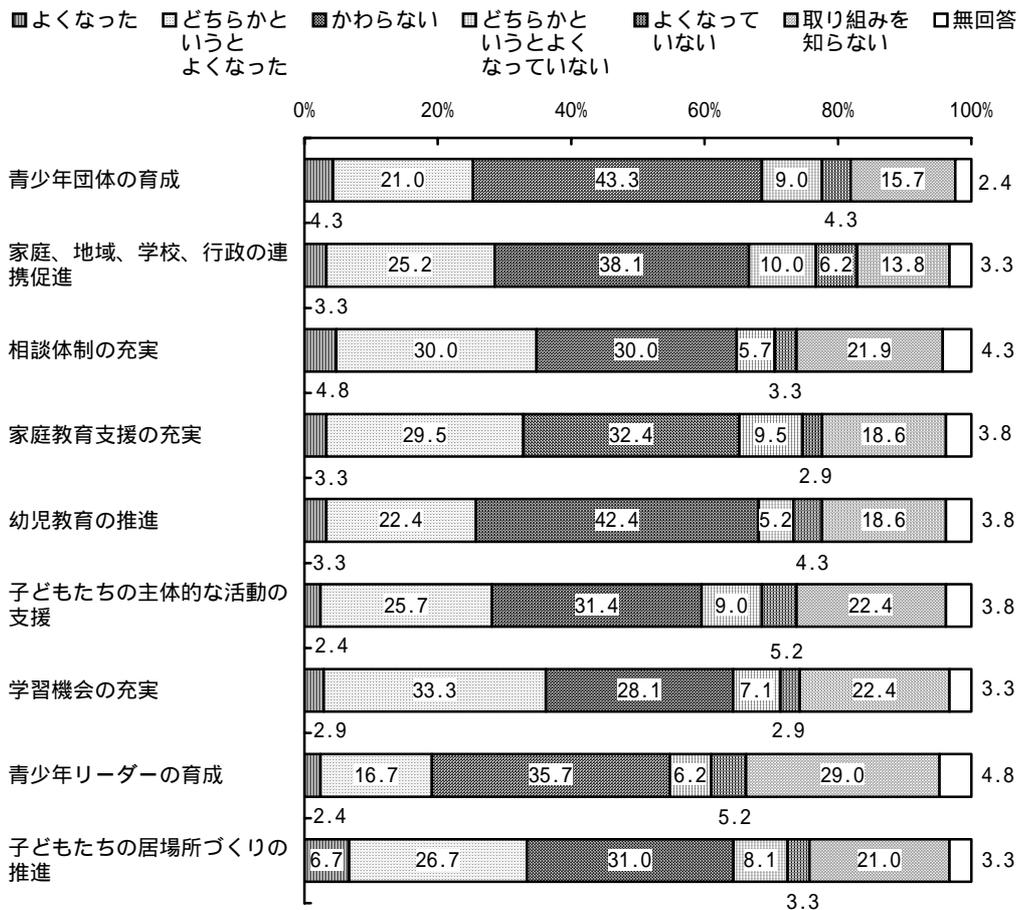
## 4-2 施策に対する満足度（満足度評価）

特に評価が低いのは『青少年リーダーの育成』。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”がすべて4割を下回っており、特に評価が低いのは『青少年リーダーの育成』で19.1%と2割を下回っています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：210人）



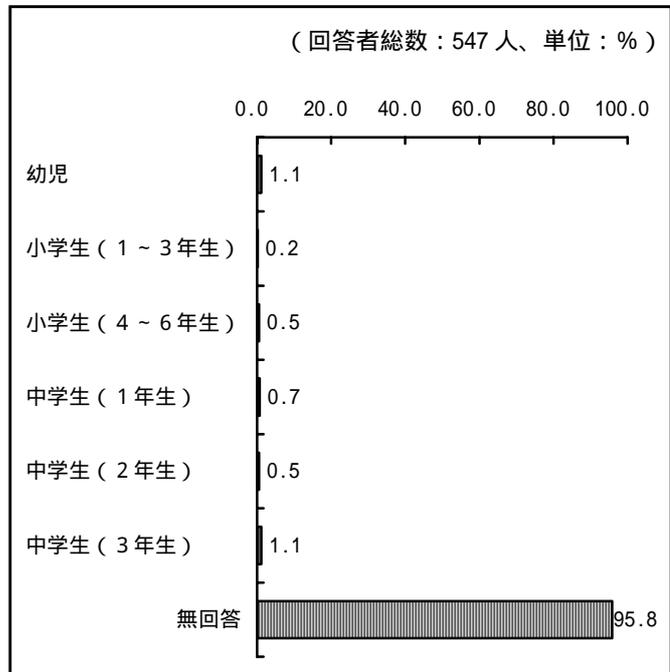
### 4-3 関連設問

#### (1) お子さんの年齢 (問 24)

一番下に中学生以下の子どもがいる人は回答者中約4%。

一番下の子どもの年代をたずねたところ、中学生以下の子どもがいる人は少なく、「幼児」から「中学生」まであわせると4.1%です。

図 お子さんの年齢

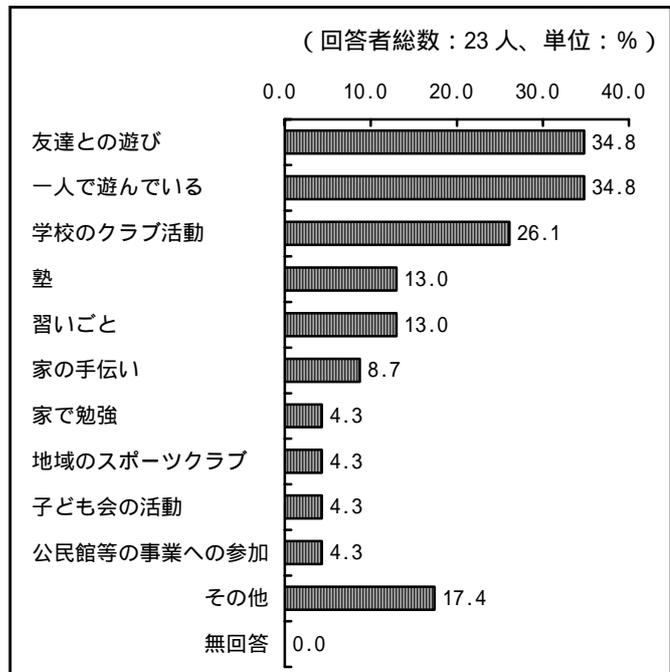


#### (2) お子さんの土・休日の過ごし方 (問 25)

「友達との遊び」と「一人で遊んでいる」が同率で約4割。

幼児から中学生までの子どもがいる人に、子どもが土・休日等に主に何をして過ごしているかをたずねたところ、「友達との遊び」と「一人で遊んでいる」が同率で34.8%と最も高くなっています。次いで、「学校のクラブ活動」が26.1%、「塾」と「習いごと」が同率で13.0%となっています。

図 お子さんの土・休日の過ごし方 (複数回答)

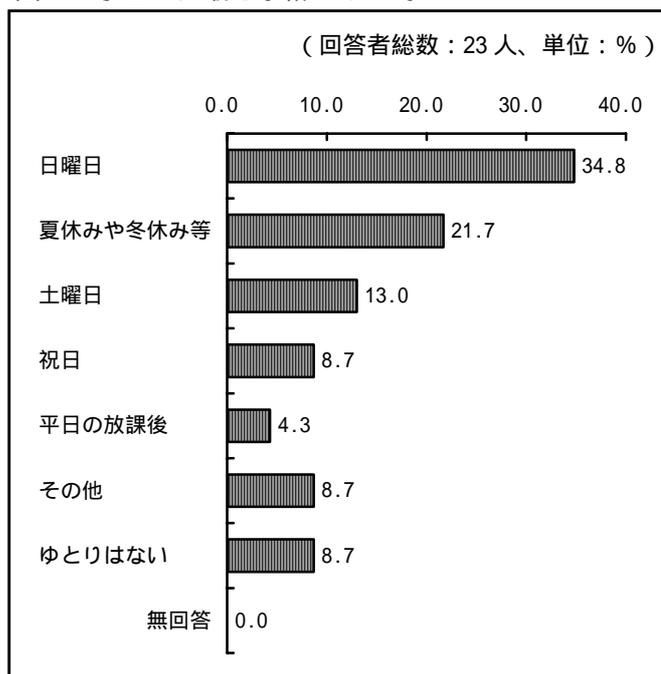


(3) お子さんに最も余裕のある時(問26)

「日曜日」が約4割で最も高い。

幼児から中学生までの子どもがいる人に、子どもにとって時間的に最もゆとりがある時をたずねたところ、「日曜日」が34.8%で最も高くなっています。次いで、「夏休みや冬休み等」が21.7%となっています。

図 お子さんに最も余裕のある時

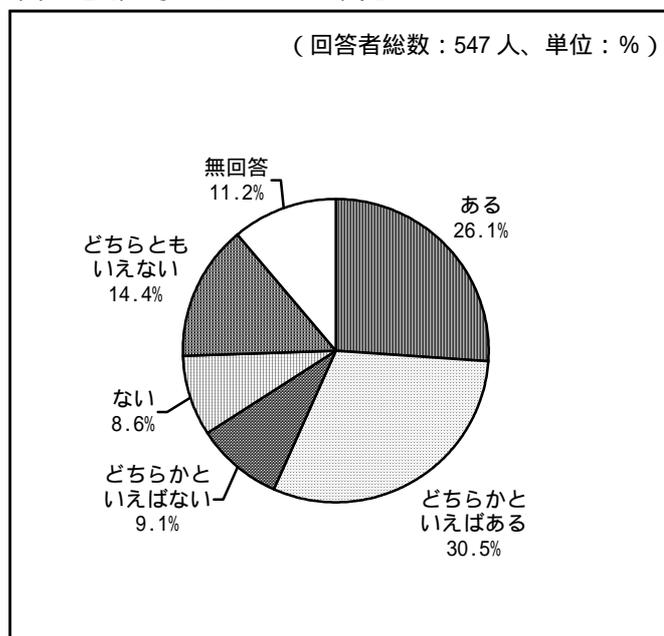


(4) 地域の子どもたちへの関心(問27)

関心がある人は約6割。

地域の子どもたちの行動に対して関心があるかについては、「ある」が26.1%、「どちらかといえばある」が30.5%となっており、あわせると関心があるという人は56.6%となっています。

図 地域の子どもたちへの関心

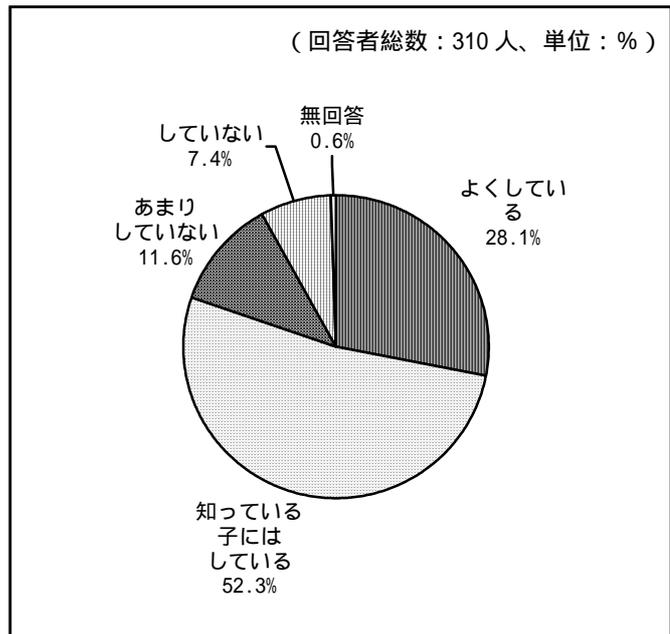


(5) 子どもたちへのあいさつや声かけ (問27-1)

あいさつや声かけをしている人は約8割。

地域の子どもたちの行動に対して関心がある人が子どもたちと会った時に、気軽にあいさつや声かけなどを行っているかについては、「よくしている」が28.1%、「知っている子にはしている」が52.3%で、あわせるとあいさつや声かけをしている人は80.4%を占めています。

図 子どもたちへのあいさつや声かけ

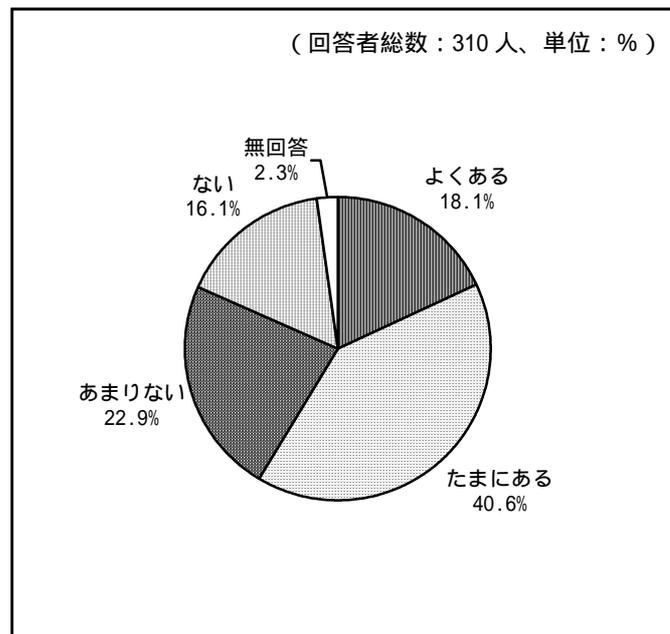


(6) 子どもについて地域の人と話をすること (問27-2)

“話をする”が約6割。

地域の子どもたちの行動に対して関心がある人が、地域の人と子どもたちのことについて話をすることがあるかについては、「よくある」が18.1%、「たまにある」が40.6%で、あわせると“話をする”が58.7%となっています。

図 子どもについて地域の人と話をすること

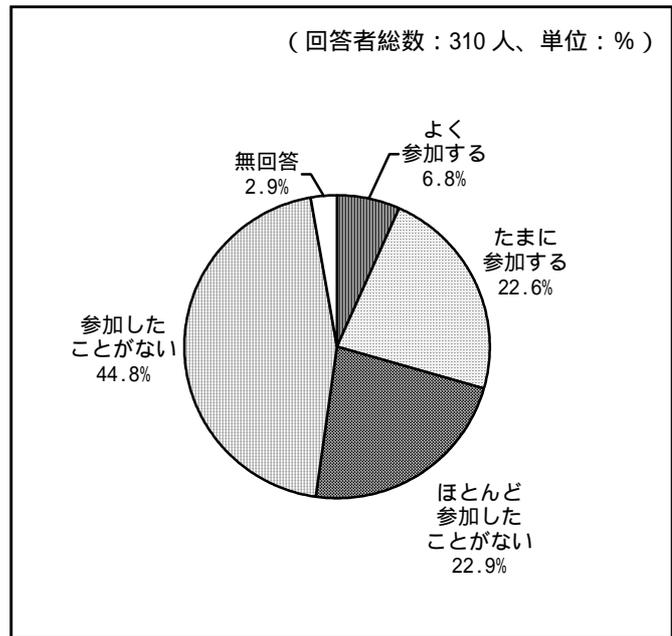


(7) 地域の子どもに関する活動に参加したことの有無 (問27-3)

参加している人は約3割。

地域の子どもたちの行動に対して関心がある人の、地域の子どもに関する活動(子ども会・ボーイスカウト・PTA・スポーツ大会等)への参加状況については、「よく参加する」が6.8%、「たまに参加する」が22.6%で、あわせると参加したことがある人は29.4%となっています。

図 地域の子どもに関する活動に参加したことの有無

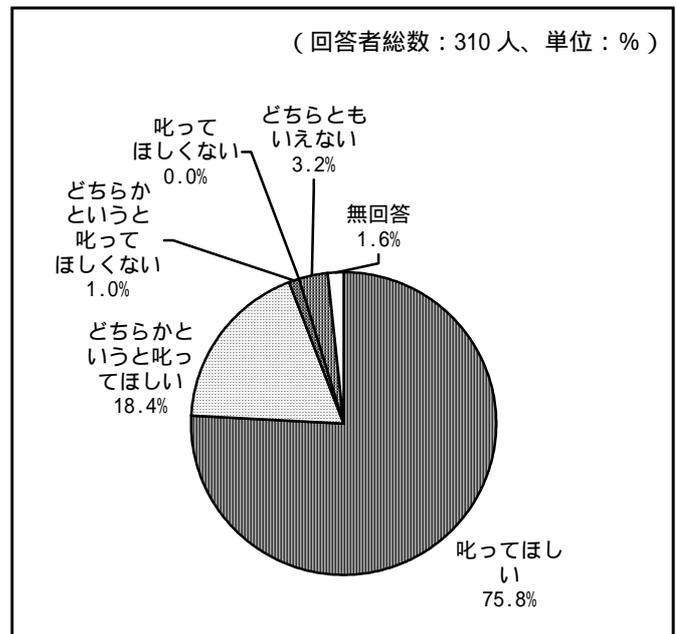


(8) 自分の子どもを叱られることについて (問27-4)

“叱ってほしい”は9割以上。

地域の子どもたちの行動に対して関心がある人が、自分の子どもが悪いことをしていたら地域の人に叱ってほしいかについては、「叱ってほしい」が75.8%、「どちらかという叱ってほしい」が18.4%で、あわせると“叱ってほしい”は94.2%を占めています。

図 自分の子どもを叱られることについて

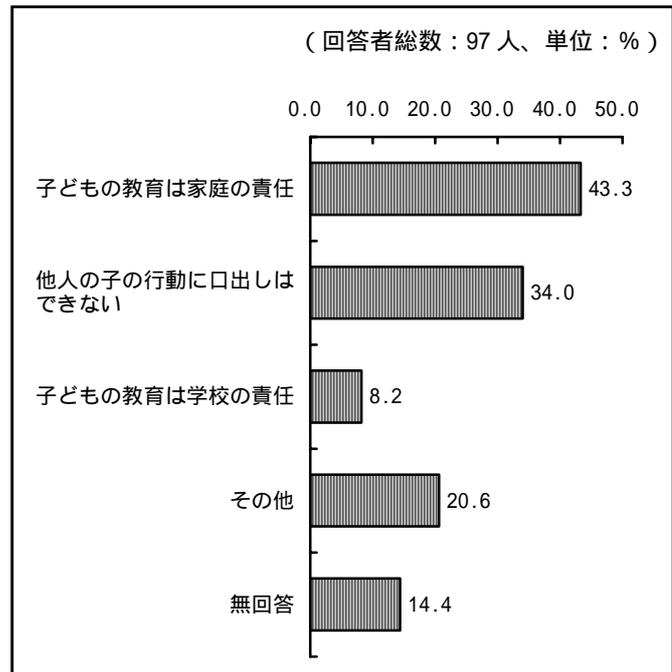


(9) 地域の子どもに関心のない理由 (問 28)

「子どもの教育は家庭の責任」が約4割。

地域の子どもたちの行動に対して関心がないとした人に、関心がない理由についてたずねたところ、「子どもの教育は家庭の責任」が43.3%で最も多く、次いで「他人の子の行動に口出しはできない」が34.0%で多くなっています。

図 地域の子どもに関心のない理由 (複数回答)

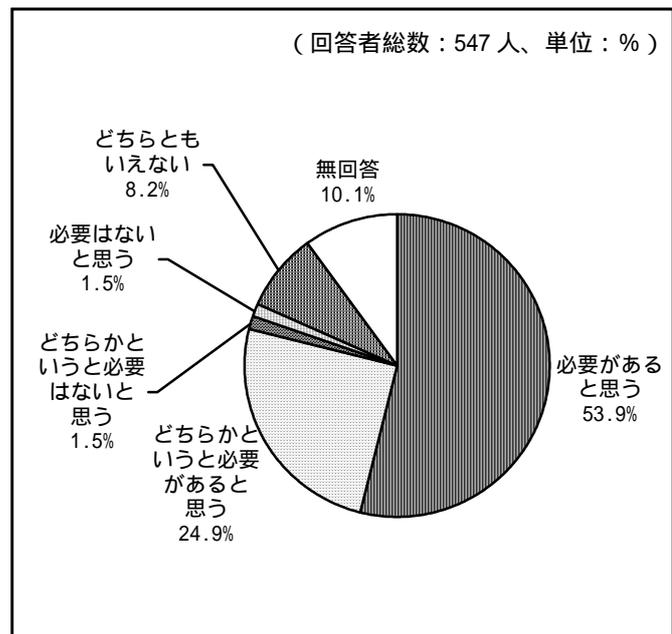


(10) 地域全体での子育ての必要性 (問 29)

“必要”が約8割。

地域で子どもたちを育てていく必要があると思うかについては、「必要があると思う」が53.9%、「どちらかという必要があると思う」が24.9%で、あわせると“必要”が78.8%を占めています。

図 地域全体での子育ての必要性



## 第5節 生涯学習推進の環境づくりについて

### 5-1 取り組みに対する評価（問33）

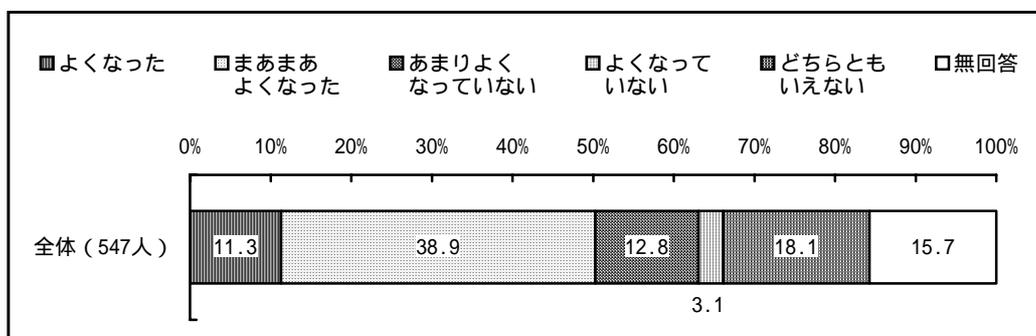
「生涯学習の推進」は、“よくなった”が約5割、“よくなっていない”が約2割。

多様な生涯学習機会の提供、公民館や図書館等の社会教育施設の整備など、生涯学習の推進については「よくなった」が11.3%、「まあまあよくなった」が38.9%で、あわせると“よくなった”が50.2%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が12.8%、「よくなっていない」が3.1%で、あわせると“よくなっていない”が15.9%です。

図 生涯学習の推進

（回答者総数：547人）



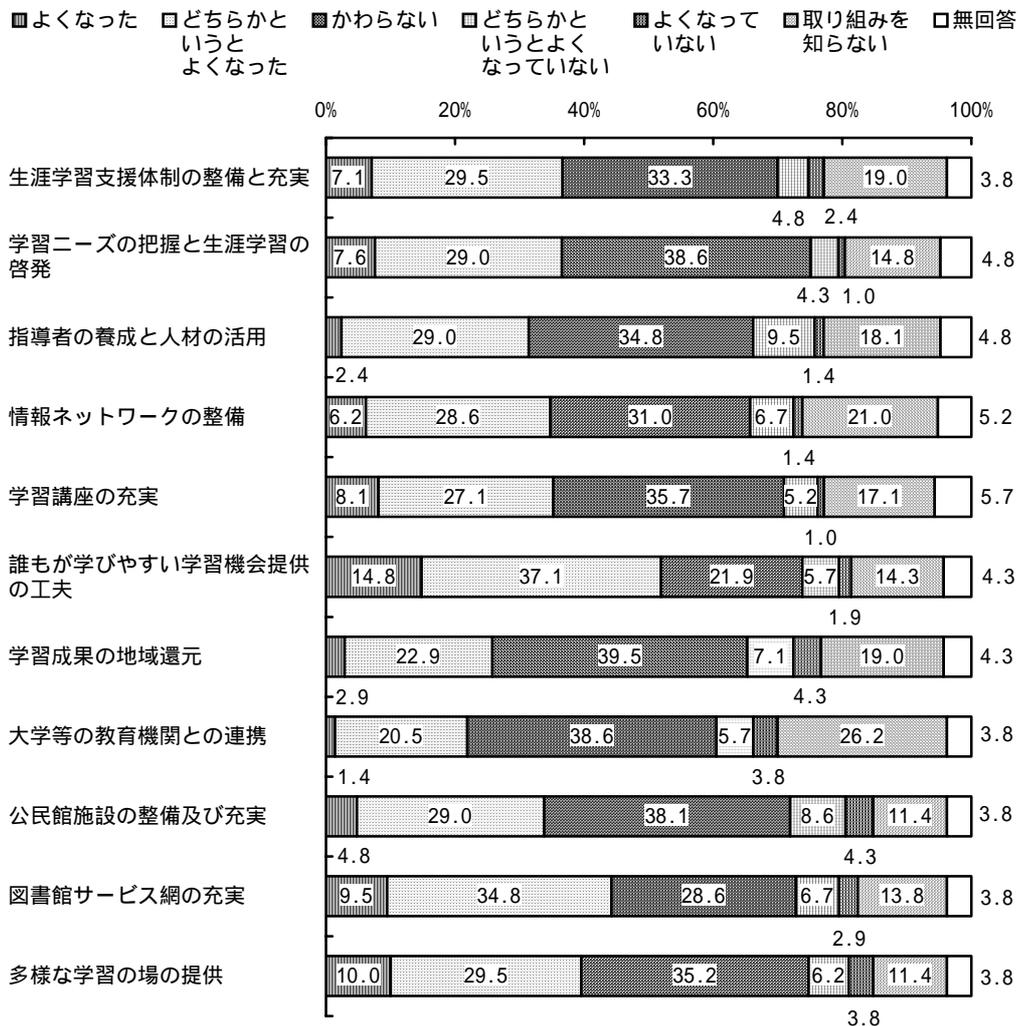
## 5-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『誰もが学びやすい学習機会提供の工夫』では5割以上、また、『図書館サービス網の充実』では4割以上と評価が高い。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせた“よくなった”が、『誰もが学びやすい学習機会提供の工夫』では51.9%と5割以上を占め、また、『図書館サービス網の充実』では44.3%と4割以上を占め評価が高くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：210人）



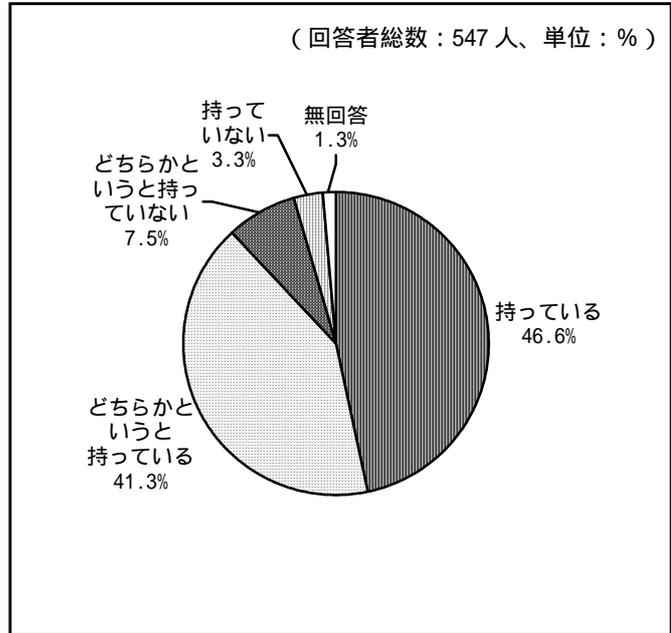
### 5-3 関連設問

#### (1) 地域や佐倉市への愛着 (問17)

愛着や誇りを持っている人は約9割

地域や佐倉市について愛着や誇りを持っているかについては、「持っている」が46.6%、「どちらかというを持っている」が41.3%で、あわせると愛着や誇りを持っている人は87.9%となっています。

図 地域や佐倉市への愛着



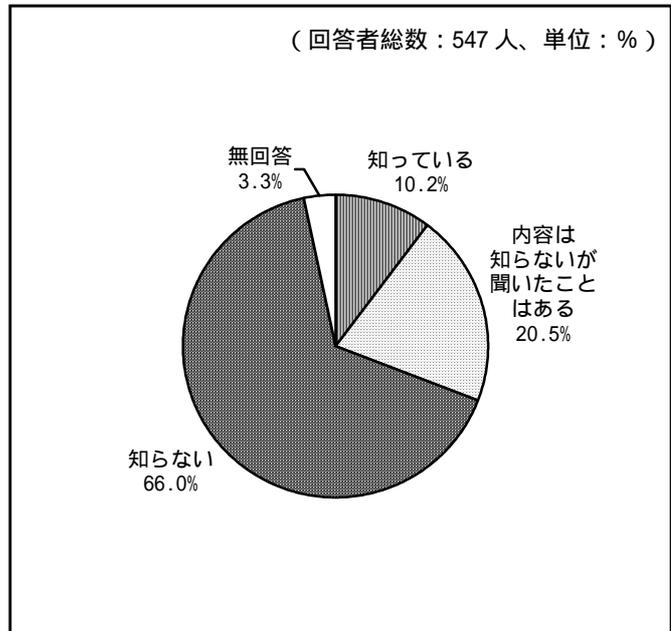
#### (2) 「佐倉学」の周知度 (問18)

“知っている・聞いたことはある”が約3割。

「佐倉学」の周知度については、「知っている」が10.2%、「内容は知らないが、聞いたことはある」が20.5%となっており、あわせると“知っている・聞いたことはある”は30.7%となっています。

一方、「知らない」は66.0%となっています。

図 佐倉学の周知度



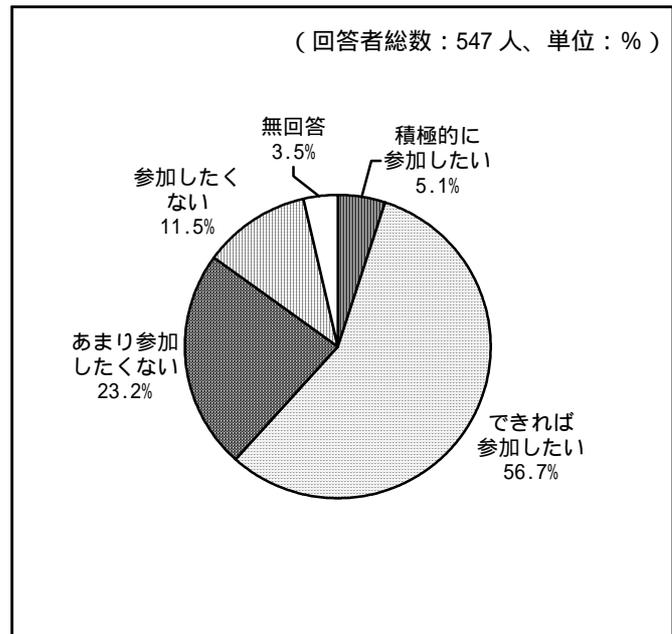
(3) 佐倉学に関する講座やイベントへの参加意向 (問19)

参加意向のある人は約6割。

「佐倉学」に関する講座やイベントへの参加意向については、「積極的に参加したい」が5.1%、「できれば参加したい」が56.7%となっており、あわせると参加意向のある人は61.8%となっています。

一方、「あまり参加したくない」は23.2%、「参加したくない」は11.5%で、参加意向のない人は34.7%となっています。

図 佐倉学に関する講座やイベントへの参加意向



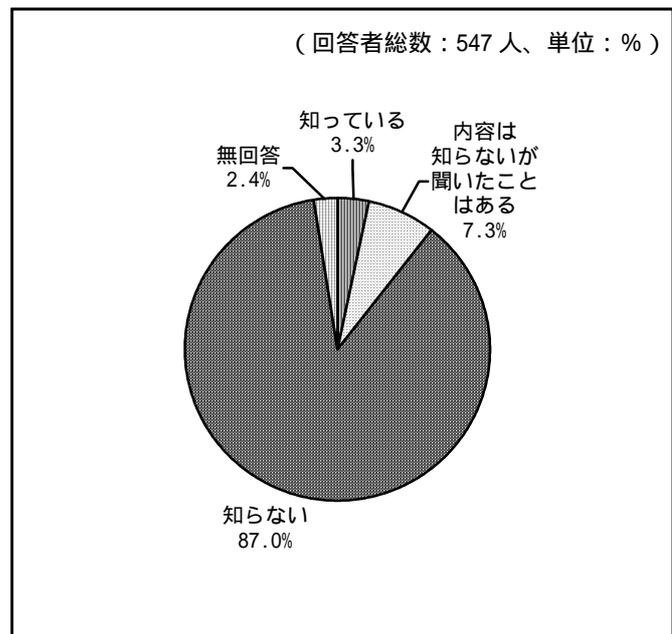
(4) 「佐倉っ子塾」の周知度 (問20)

“知っている・聞いたことはある”は約1割。

「佐倉っ子塾」の周知度については、「知っている」が3.3%、「内容は知らないが、聞いたことはある」が7.3%となっており、これらをあわせると“知っている・聞いたことはある”は10.6%となっています。

一方、「知らない」は87.0%となっています。

図 「佐倉っ子塾」の周知度

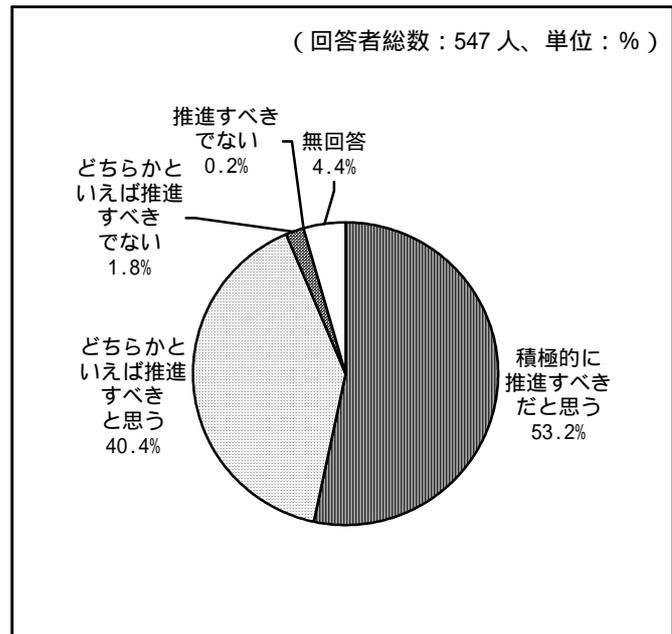


(5) 佐倉学を取り入れた授業について(問21)

推進すべきという人は約9割。

市内小・中学校における「佐倉学」の教材を取り入れた授業についてどう思うかについては、「積極的に推進すべきだと思う」が53.2%、「どちらかといえば推進すべきだと思う」が40.4%となっており、あわせると推進すべきという人は93.6%を占めています。

図 佐倉学を取り入れた授業について



## 第6節 生きる文化、活かす文化のまちづくりについて

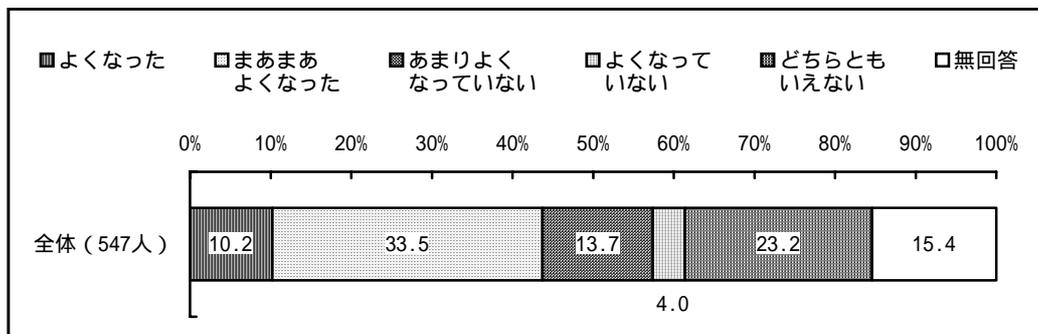
### 6-1 取り組みに対する評価（問33）

「文化と触れ合う機会の提供及び文化の保存」は、“よくなった”が約4割、“よくなっていない”が約2割。

文化施設の整備や文化財の保存と活用など、文化と触れ合う機会の提供及び文化の保存については「よくなった」が10.2%、「まあまあよくなった」が33.5%で、あわせると“よくなった”が43.7%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が13.7%、「よくなっていない」が4.0%で、あわせると“よくなっていない”が17.7%です。

図 文化と触れ合う機会の提供及び文化の保存 (回答者総数：547人)



### 6-2 施策に対する満足度（満足度評価）

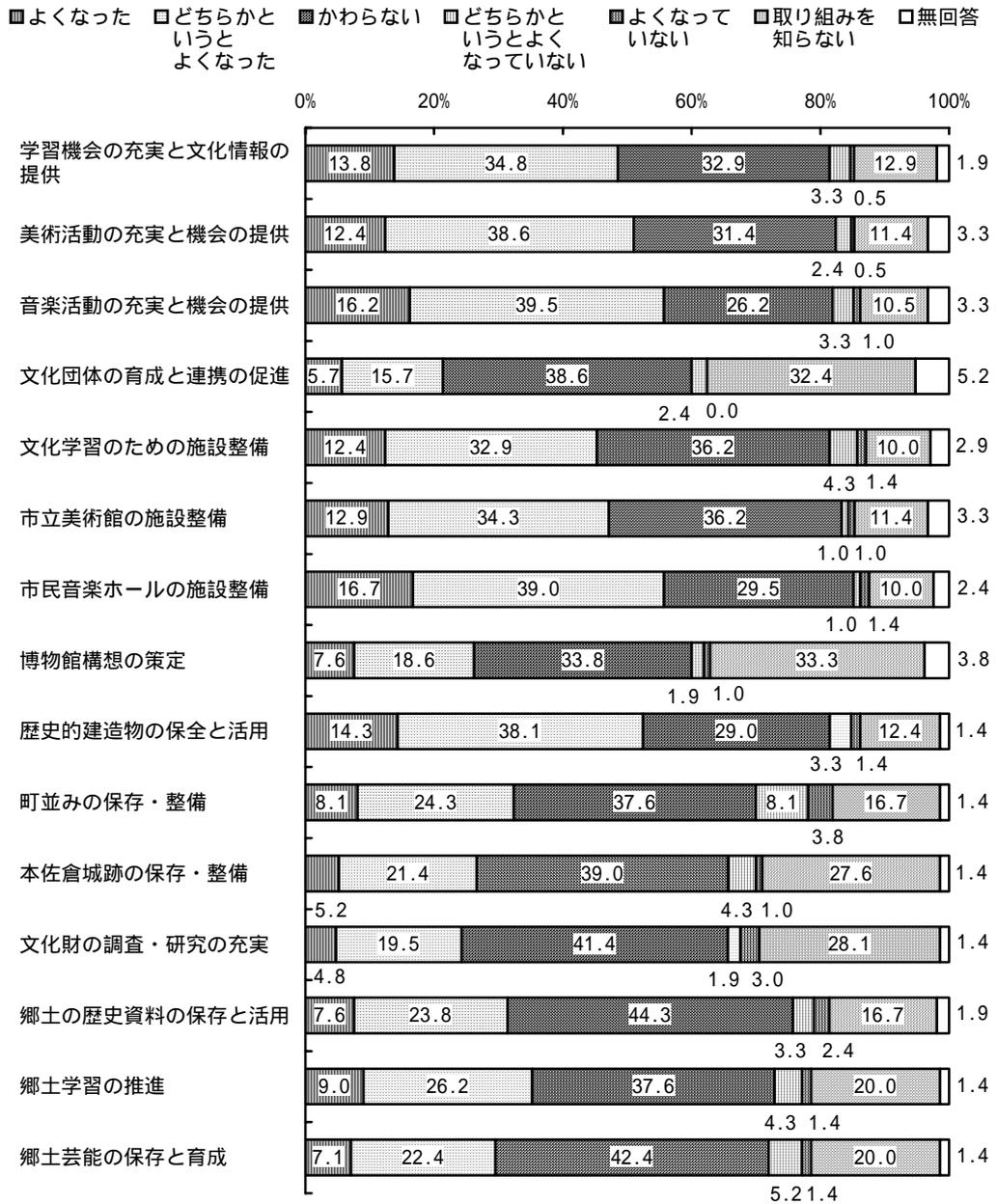
“よくなった”が『音楽活動の充実と機会の提供』、『市民音楽ホールの施設整備』、『歴史的建造物の保全と活用』、『美術活動の充実と機会の提供』では5割以上。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというによくなった」をあわせた“よくなった”が、『音楽活動の充実と機会の提供』と『市民音楽ホールの施設整備』ではともに55.7%、『歴史的建造物の保全と活用』では52.4%、『美術活動の充実と機会の提供』では51.0%と5割以上を占め高い評価を得ています。また、『学習機会の充実と文化情報の提供』では48.6%、『市立美術館の施設整備』では47.2%、『文化学習のための施設整備』では45.3%と4割以上を占めています。

また、「取り組みを知らない」が『博物館構想の策定』と『文化団体の育成と連携の促進』では3割以上を占めています。

図 施策に対する満足度

(回答者総数：210人)



## 第7節 生涯スポーツの充実について

### 7-1 取り組みに対する評価（問33）

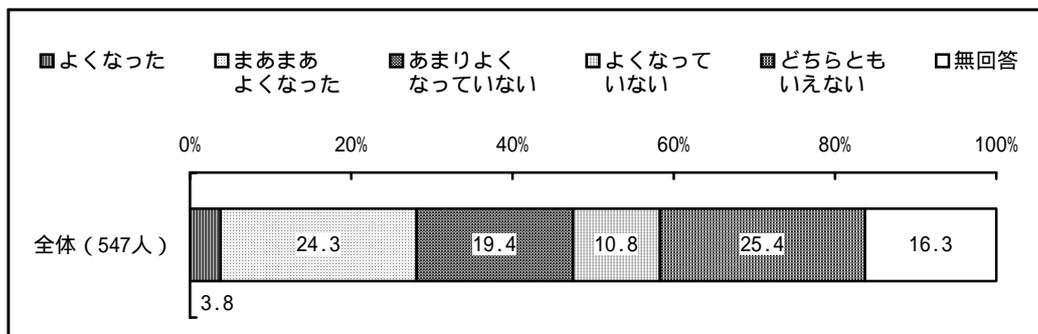
「生涯スポーツの充実」は、「よくなった」が約3割、「よくなっていない」も約3割。

スポーツに親しむ機会の充実やスポーツ施設の整備など、生涯スポーツの充実については「よくなった」が3.8%、「まあまあよくなった」が24.3%で、あわせると“よくなった”が28.1%です。

その一方、「あまりよくなっていない」が19.4%、「よくなっていない」が10.8%で、あわせると“よくなっていない”が30.2%です。

図 生涯スポーツの充実

（回答者総数：547人）



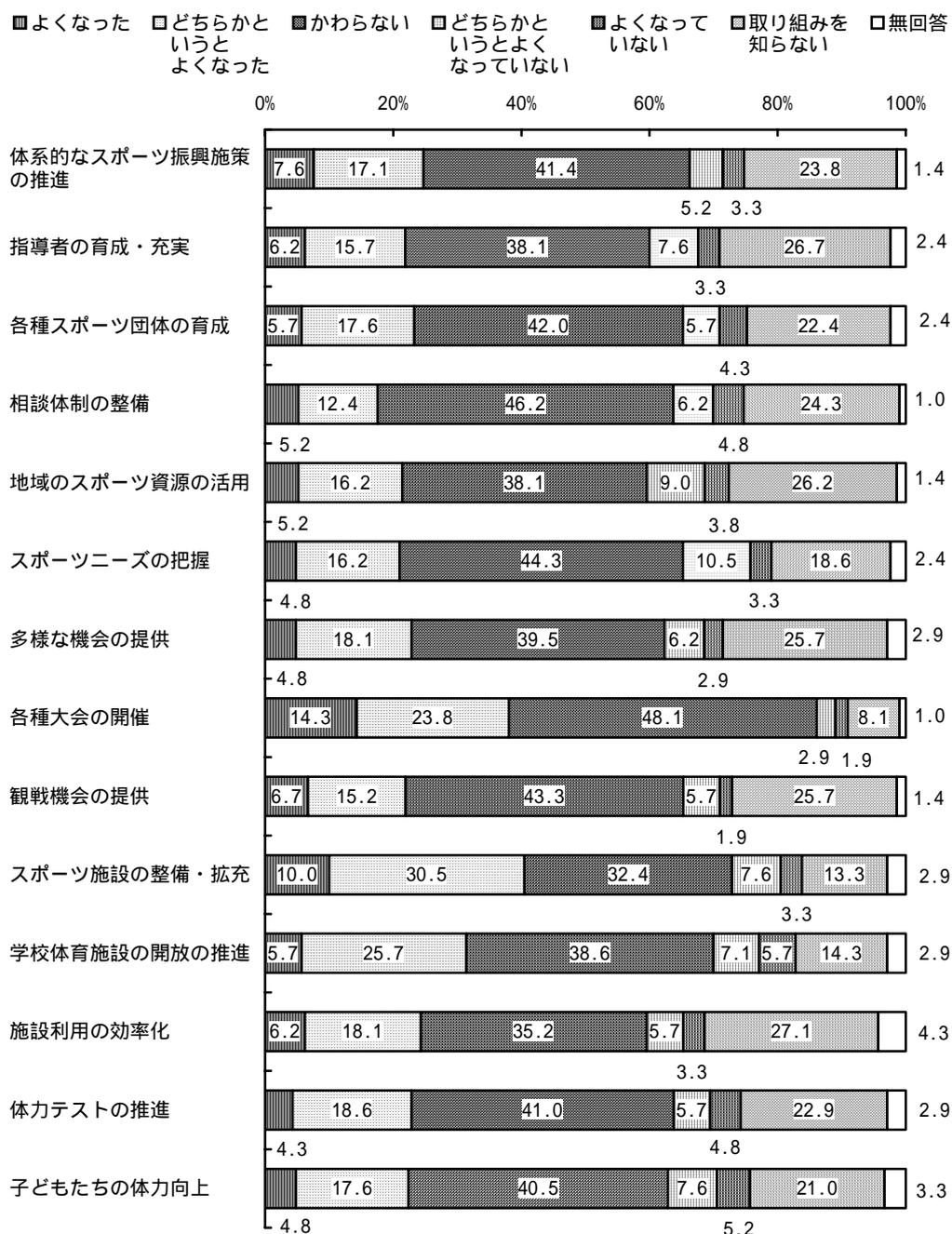
## 7-2 施策に対する満足度（満足度評価）

“よくなった”が『スポーツ施設の整備・拡充』では4割以上、一方、『相談体制の整備』では2割を下回る。

各施策に対する満足度については、「よくなった」と「どちらかというよくなった」をあわせて“よくなった”が、『スポーツ施設の整備・拡充』では40.5%と4割以上を占めています。その一方、『相談体制の整備』では17.6%と2割を下回り評価が低くなっています。

図 施策に対する満足度

（回答者総数：210人）



### 7-3 関連設問

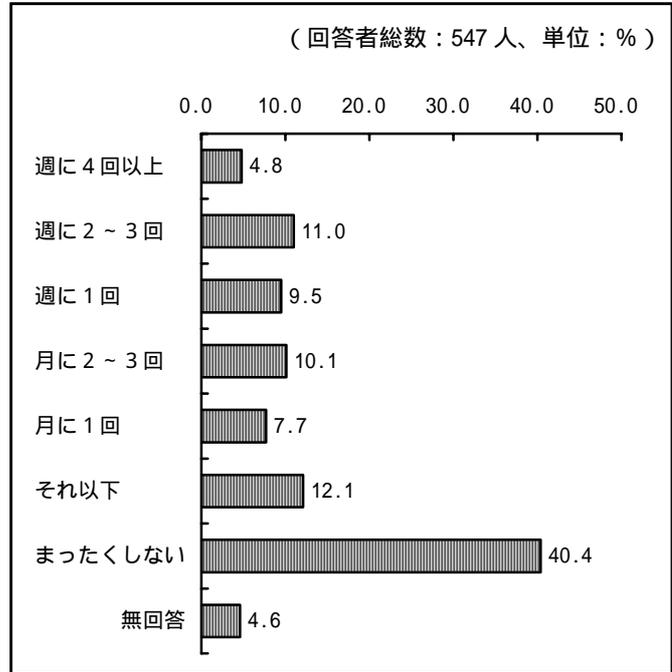
#### (1) 普段のスポーツ頻度 (問30)

「まったくしない」が約4割。

普段どれくらいスポーツをするかについては、「まったくしない」が40.4%で最も高くなっています。

また、「週に4回以上」が4.8%、「週に2～3回」が11.0%、「週に1回」が9.5%で、週に1回以上する人は25.3%です。

図 普段のスポーツ頻度



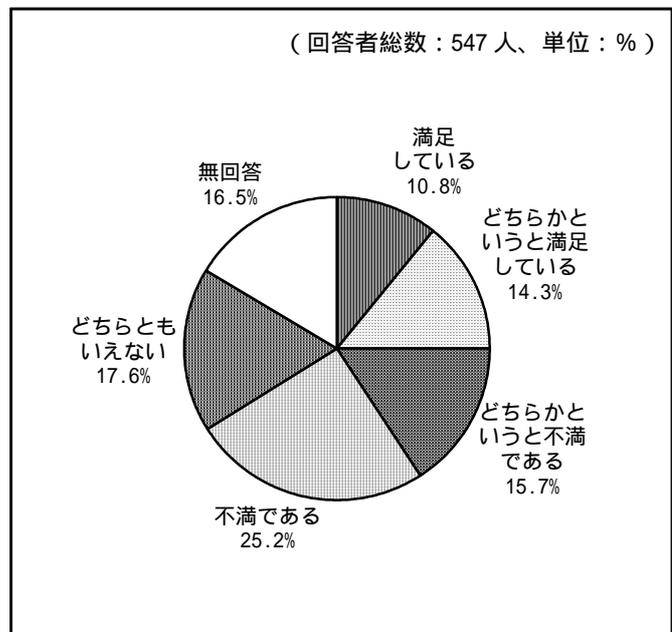
#### (2) 現在の運動量への満足度 (問31)

満足派は約3割、不満派は約4割。

今のスポーツ活動(運動)の回数や量に満足しているかについては、「満足している」が10.8%、「どちらかという満足している」が14.3%で、あわせると満足派は25.1%です。

一方、「どちらかという不満である」は15.7%、「不満である」は25.2%で、あわせると不満派は40.9%です。

図 現在の運動量への満足度

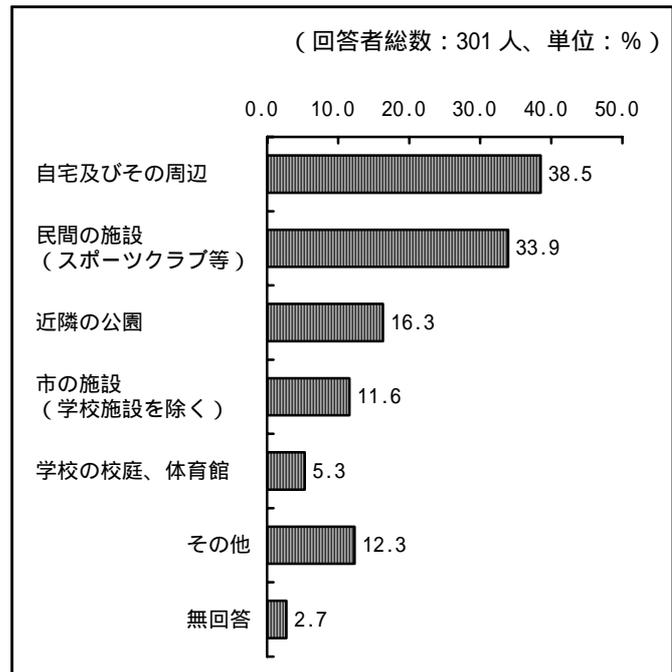


(3) 普段スポーツを行う場所(問32)

「自宅や周辺」と「民間施設」が高い。

普段、スポーツを行っている場所については、「自宅及びその周辺」が38.5%で最も高く、次いで「民間の施設(スポーツクラブ等)」が33.9%となっています。

図 普段スポーツを行う場所(複数回答)



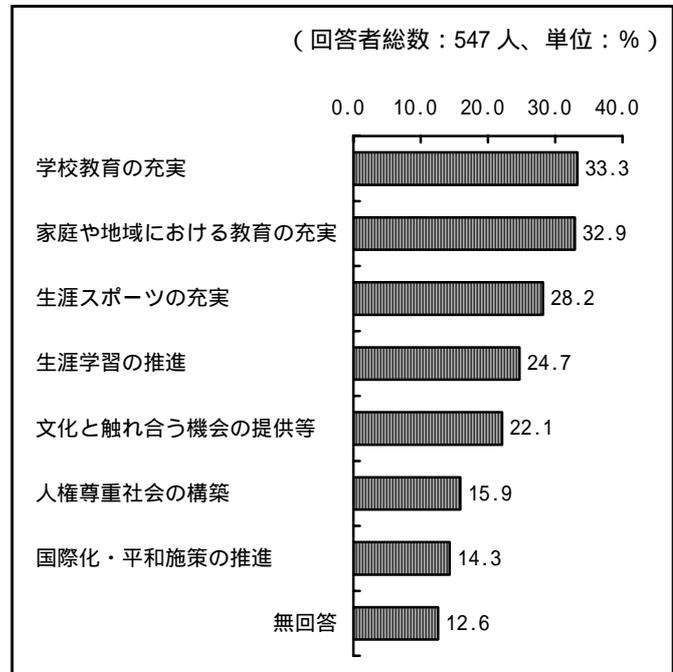
## 第8節 重点的に取り組むべき施策

### 8-1 重点的に取り組むべき施策（問34）

「学校教育の充実」が最も高く、次いで「家庭や地域における教育の充実」が続く。

「文化・学習」について、これからの5年間（平成18年度～22年度）重点的に取り組むべき施策をたずねたところ、教育内容・教育方法の充実など「学校教育の充実」が33.3%で最も高くなっています。次いで、子どもたちの活動機会や場の充実など「家庭や地域における教育の充実」が32.9%、スポーツに親しむ機会の充実やスポーツ施設の整備など「生涯スポーツの充実」が28.2%で続いています。

図 重点的に取り組むべき施策（複数回答）



## 第9節 市の取り組みについて

### 9-1 市の取り組みへの満足度（問35）

『文化と触れ合う機会の提供及び文化の保存』や『生涯学習の推進』が、比較的満足度が高い。

市の取り組みへの満足度を各項目ごとにたずねたところ、「満足している」と「どちらかという満足している」をあわせた満足派が多いのは、『文化と触れ合う機会の提供及び文化の保存』や『生涯学習の推進』などです。

一方、「どちらかという不満である」と「不満である」をあわせた不満派が多いのは、『家庭や地域における教育の充実』です。

図 市の取り組みへの満足度

（回答者総数：547人）

